

巨樹・巨木シリーズ-10

細田木材工業株式会社
顧問 細田 安治

前号で新潟県を訪ね、今号もU氏の調査資料をもとに、山形県の巨樹・巨木をご紹介します。新潟県、山形県はどちらも日本海に面した地域をもち、盆地があり、山岳地帯もある。しかし、新潟と山形では巨樹・巨木の種類が違っている。新潟は榲が多く、山形では杉が多い。一方、平野で都会地の関東では銀杏が圧倒的に多い。地域による植生の違いを比べてみれば面白い結果が出るかもしれぬが、今号では横道にそれず本道を進むことにする。

◇山形県の特徴

県土の約7割を森林が占める山菜の宝庫で、わらびの生産量日本一を誇る。主な産業(出荷額ベース)をみると、情報通信機械、電子部品・デバイス(情報端末)、食料品となっている。品目をみると、B重油(ディーゼルエンジンやバーナーの燃料として使われる)、ハイファイ用・自動車用スピーカーシステム、35ミリを除くカメラの出荷額が全国で1位と言われている。山国どころか最先端を走る技術県ではないか。県民所得も一人当たりのGDPの比較では新潟、福島、山形の3県でトップである。

伝統ある農林関連では、ご存じのサクランボ、洋ナシ、リンゴなどの果物等の出荷額が多く、伝統ある紅花や漆器など民芸品も有名である。また数多くある温泉地は、観光事業の目玉として内外から多くの観光客を集めている。このようなロケーションをもつ山形県には、どんな巨樹が、巨木があるのか興味深い。

◇1 東根の大榲

東北地方ではかつて榲を榲つぎと称していた。書籍「日本の樹木」でも榲は榲の別名とあるが、榲を「ニセ榲」と呼ぶ地方もある。現に筆者は、岩手県で伝統的な大きな金具付きの榲箆せきを作っている家具屋さんを訪問した際、榲と榲は違う、と散々講釈された経験をもつ。本稿では、榲を榲の東北地方での呼び名として進める。

東根の大榲は、南北朝時代の正平2年(1347年)に小田島長義が築いた東根城内に植栽されたものと伝えられる。その当時雄榲、雌榲と呼ばれた2本の大榲があったが、明治18(1885)年に雄榲は枯れてしまい、現在は雌榲だけが残っている。これが東根の大榲である。山形県林業試験場長大津正英氏(農学博士)によれば、樹齢1500年以上で、地上1.2mの樹周は16mあり、さらに直径は5mである。主幹は、地上5.5mの高さで大きく二又に分かれ、西南側のものが、やや直上して枝を分け、東西も大きく枝を分けて大空を覆い、その高さは約28mに達する。

平成元(1989)年五月、植物学の権威である金沢市の里見信生が、大相撲の番付表を模した「日本榲見立て番付け」を発表した。東根の大榲は、東の横綱に位置し、名実ともに日本一である(東根市教育委員

会)。

国指定特別天然記念物東根の大櫨は東根小学校敷地内にある。この一帯には、かつて東根城(小田嶋城)があり、本丸などの中枢部を守る水堀であった光専寺沼、龍興寺沼、中沼という3つの沼が現存するなど、当時の面影を今も残している。

東根城は、すでに述べたように南北朝時代の1347年、北条氏や和田氏ともつながる鎌倉の名族の出である小田嶋長義が築城したといわれている。長義の事績としては、若宮八幡神社を創建したり、普光寺に梵鐘を寄進したりしたことなどが伝えられている。小田嶋氏の後、東根城は、約190年間7代続く東根氏の居城となった。

またこの地域では、台風によって作物が被害に遭わないように祈る「風祭り」にてお神楽が奉納され、地藏信仰が盛んであったことを伝える六面幢や地藏が見られ、地域住民の信仰の在り様を窺い知ることもできる。

地域住民が歴史的価値を再認識し、誇りを持って、東根の大櫨が見守ってきた東根城跡とその周辺一帯について、関連する文化財等を結びつけ、市内外に向けて情報発信している。

昭和32年国指定特別天然記念物、昭和61年山形新聞社・山形放送主催「グリーン山形110景」選定、平成2年6月読売新聞社と国際花と緑の博覧会協会主催「新日本名木100選選定」。

・筆者の感想

筆者は東根の大櫨を二度訪問し、カメラに収めた。二度も見たのは、当時は銘木とツキ板の仕事をしており、「日本一の櫨はどんなものだろうか」、との思いで立ち寄ったのである。銘木として、ツキ板として使えるだろうか?このような視点で見えていたためか、今大櫨の写真と向き合っただけで感じた感慨は生まれなかった。

大櫨の前に立つと一見して根元分れしていることがわかる。根っこが大きくなり木全体が持ち上がったようになっている。つまり根元の周りの土が洗い流され、根の上部が地上に出て祠のようになり、大櫨全体がご神体のように見える。1500年以上の風雪に耐えた実に壮大な大櫨である。写真-1をご覧ください。

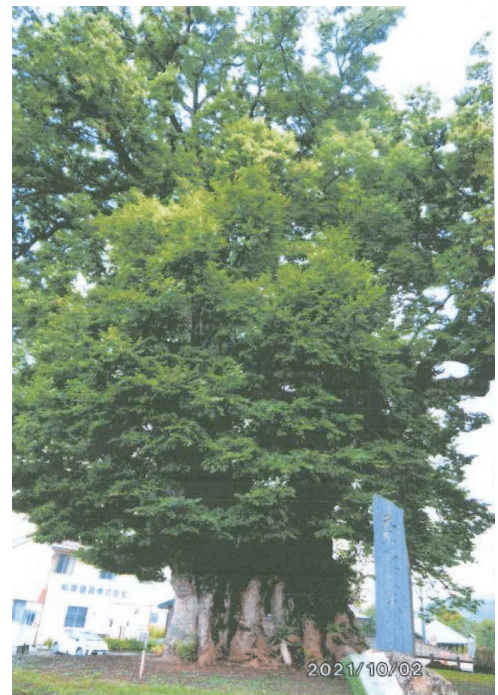


写真-1 東の横綱 東根の大櫨

◇2 いわかみだいごんげん 岩神大権現杉

いつの時代か一人の修験者が葉山へ参詣の往路、この地にさしかかったところ大きな杉の木に、権現様のお姿が現れたのを見て、これは葉山権現様のお姿ではないかとその神々しさに心を打たれ、この地で長く修行をしたと伝えられている。以後、村人たちはこの杉を権現様と呼び、神木として祀るようになった。古くからこの辺りは三本杉前として伝えられていて、大権現杉のほかの1本は、大きな切り株が昭和中頃まで輪郭が現存していたが、残る1本の所在は確認できていない。この大権現杉には不思議な言い伝えがある。

江戸時代の頃にこの1本の杉を伐ったところ、伐り終わっても倒れないどころか、切り口から血のような真っ赤な樹液が流れ出た。この光景を見た樵きこりの棟梁は戦慄を覚え、自ら神仏に祈願し、やっと伐り倒すことができた。この大杉を筏に組み、川を下って酒田の港に運ぶことにした。途中何事もなく港に着けることができたが、船頭がほっとする間もなく寒風にわかにかき起こり、筏を上流へ上流へと押し戻し、たちまち見えなくなり、その後、懸命に捜したが、とうとう発見できなかつたと言う。この不可思議な話を聞いた村人は驚き、残された杉へ尚一層の信仰を深めるようになったと言われている。

大権現杉も昭和46(1971)年頃の道路改修のため、伐られる運命にあったが、住民の嘆願もあって伐採は取りやめになった。樹周約7m、高さ27mもある。旧暦4月8日を祭日として村人の信仰を集めている。大蔵村指定天然記念物。

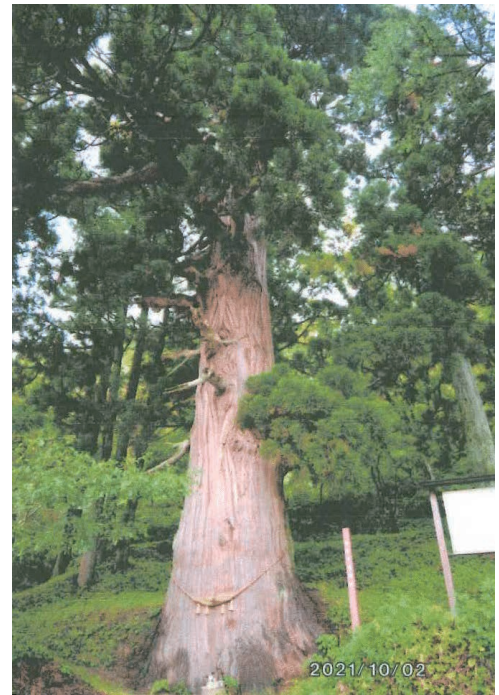


写真-2 岩神大権現の杉

◇3 東法田の大アカマツ

最上・東法田のシンボルとされている大アカマツと探索者U氏との出会いは、残念ながら叶わなかった。令和1(2019)年に枯死と診断され、3年間放置されていたが令和3(2021)年6月、遂に伐採されてしまったからである。伐採後楽器製作に活用を検討しているとあるが、その後どのような楽器に使われどこにあるかが、興味のあるところだ。情報をお持ちの方は、是非ともご教示をお願いしたいと存じます。以下は現場に残された最上町教育委員会の案内板よりご紹介する。

日本一のマツ 山形県指定天然記念物 指定日 平成5年(1991)12月3日

所在地 最上町大字東法田字東山50番地 樹周7.5m、樹高22m

このアカマツは日本一のマツである。樹齢は600年ほどと推定されており主幹にその樹齢を感じさせる見事なコブを現し、東山の中腹に雄大な姿で立っている。

この古木は平成15年(2003年)に最上町所有の樹木となったが、それ以前は菅春千代家の所有木で、同家の氏神・山の神様の神木として長い間守り育てられていた。根元には、山の神の奥の院とも言える石祠が祀られている。

昭和59年(1984年)に「山神様の大松やまがみさま おおまつ」の名称で最上町天然記念物に指定されたのち、63年度に環境

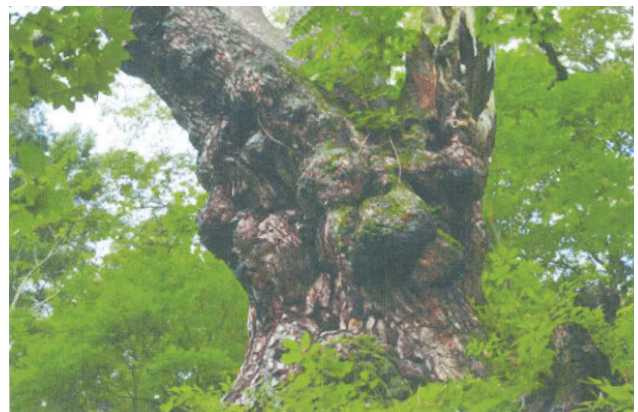


写真-3 最上郡東法田の大アカマツ。樹勢が盛んな頃の写真

庁が実施した「巨樹・巨木林調査」で、アカマツとしては日本一、マツ種全体で、日本で二番目に太いマツと認定された。その後平成5年5月18日にそれまで太さが日本一だった香川県志度町の「岡のマツ」(クロマツ)の枯死宣言が出され、このアカマツが太さで日本一のマツに昇格した。そして同年12月3日に山形県天然記念物に指定された。最上町の自然に息づく数多の巨木を代表する巨木の一つである。全国に誇れる最上町の“宝”としてまた、最上町の豊かな自然の象徴として長く後世に伝えていきたいものである。

・筆者の感想

日本一の大アカマツが枯死し、しかも伐り倒されてしまったことは、誠に残念至極である。そもそも針葉樹は広葉樹に比べ寿命が短いと記憶しているが、この大アカマツは500～600年生存したと言うから驚きである。

そもそもアカマツとは、寺社に植栽されているものや、雑木林に散在する細長く優雅なものである。ところがこの大アカマツは、別の樹種のような段違いの雰囲気をもっている。発達した大きなコブと根っこは、岩のような迫力があり、荒ぶる野生の力強さを宿している。根っこからは3本の支幹が力強く大きく立ちあがっており、正に戦う漢(おとこ)を思わず素晴らしい姿である。

神様の木として人々に大切に守られ、崇められたからこそ長く生きたのではないか。人々の信仰が集まるにつれ神木として近寄りがたい厳粛な威容をもつ木になっていったのではないか。

筆者に資料を提供してくれている巨樹探索者のU氏が4か月遅れで伐採に間に合わなかったことは、さぞかし残念な思いであったかが伐採跡の写真から窺われる。続く



写真-4 伐採され根まで掘起こされ跡形もない。大きな穴のみとなった大アカマツ

ドラッカー言葉

現代の経営

第2章「マネジメントの仕事」

◇マネジメントとは誰であるか。ボスではなく組織に仕事をさせる

◇マネジメントとは何をするのか 事業活動により経済的成果を上げる

◇マネジメントの三つの機能

- ・第一の機能 事業をマネジメントすること
- ・第二の機能 経営管理者をマネジメントする
- ・第三の機能 現在と未来のマネジメントする

ボスは組織を動かし経済的成果を上げよとある 含蓄ある言葉であり学ぶべきことが多い 続く